

松壽堂

墨のご案内



■ 目 次

| | |
|---------------------------------|-------|
| ごあいさつ | 1 |
| 一般・学生用墨・揮毫用墨 | 2 |
| 上級・専門家用墨・仮名用純油煙墨 | 3 |
| 極上油煙墨・変形墨・紅花墨 | 4 |
| 作品用超極品油煙墨 | 5 |
| 揮毫用純油煙墨・超極品純油煙墨・青墨 | 6 |
| 極上松煙墨・上青墨・朱墨・写経練習墨・拓本墨・白墨 | 7 |
| 墨液・各種書道用品 | 8 |
| 墨の原料 | 9 |
| 墨の製造工程 | 10・11 |



ごあいさつ

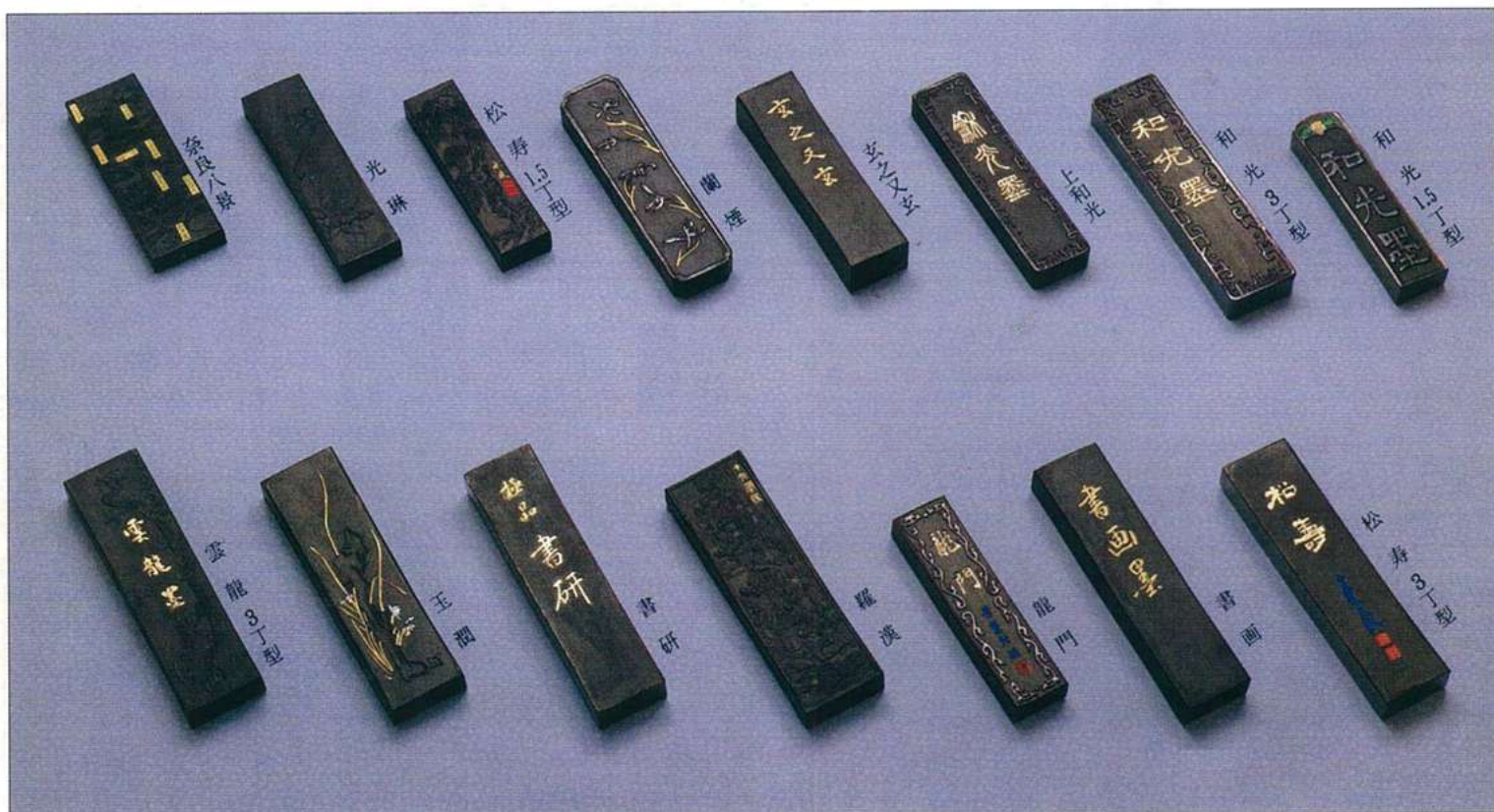
平素は松壽堂の墨を御愛用下さいまして、厚く御礼申し上げます。
当店は森若狭に始まり、伝来の秘法による製墨の技術を時代に応じて更に進歩させるよう研究を続け、常に良品を提供するよう努めております。

このカタログは、当店の製品を皆様に御覧いただき、御理解いただくために作成したものです。

今後共なお一層の御愛用を伏してお願い申し上げます。

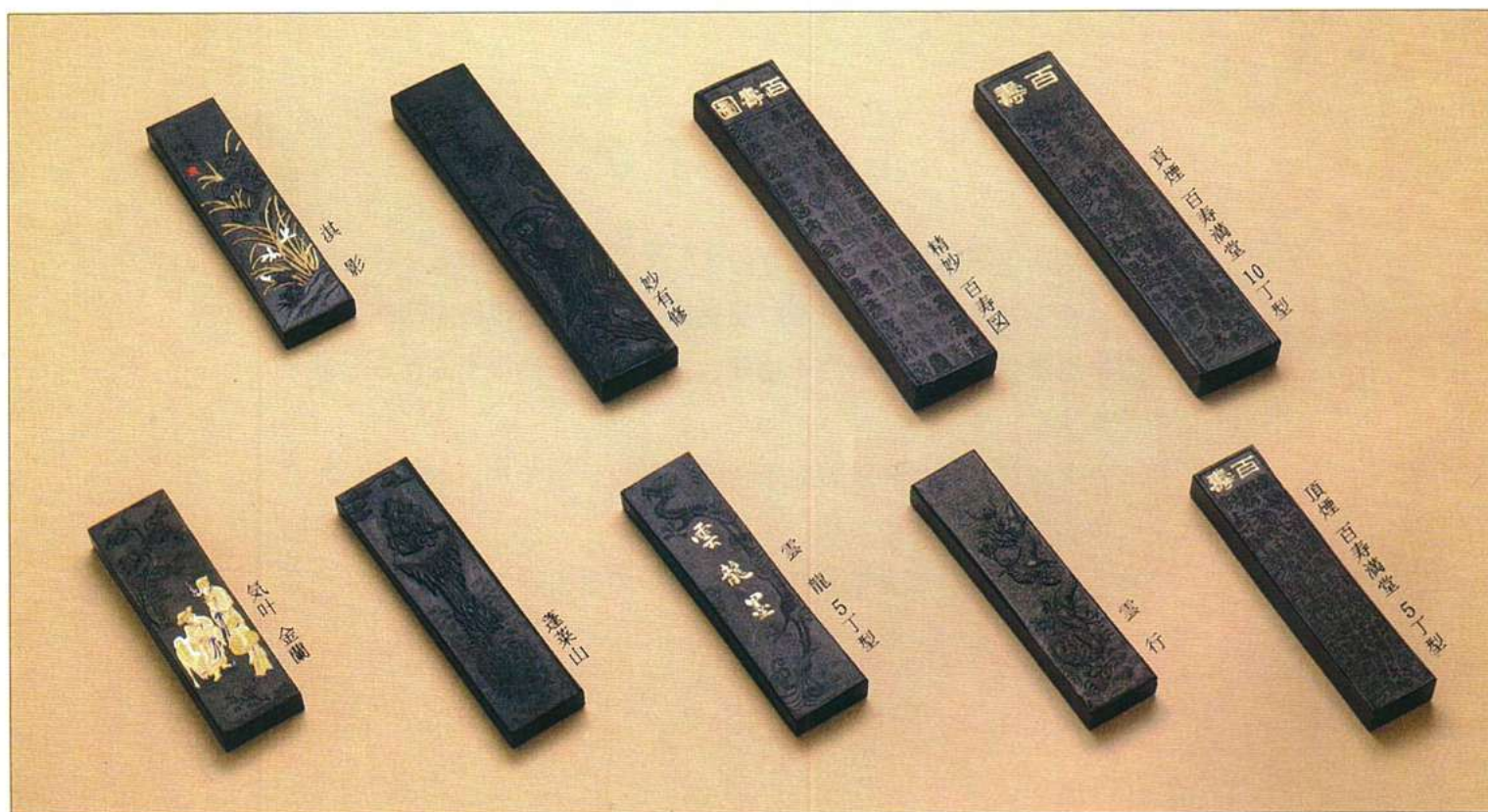
一般・学生用墨

学童の習字用、および一般の方の練習用としてご用意いたしました。早くおりて、伸びもよく、純黒の墨色がお楽しみいただけます。



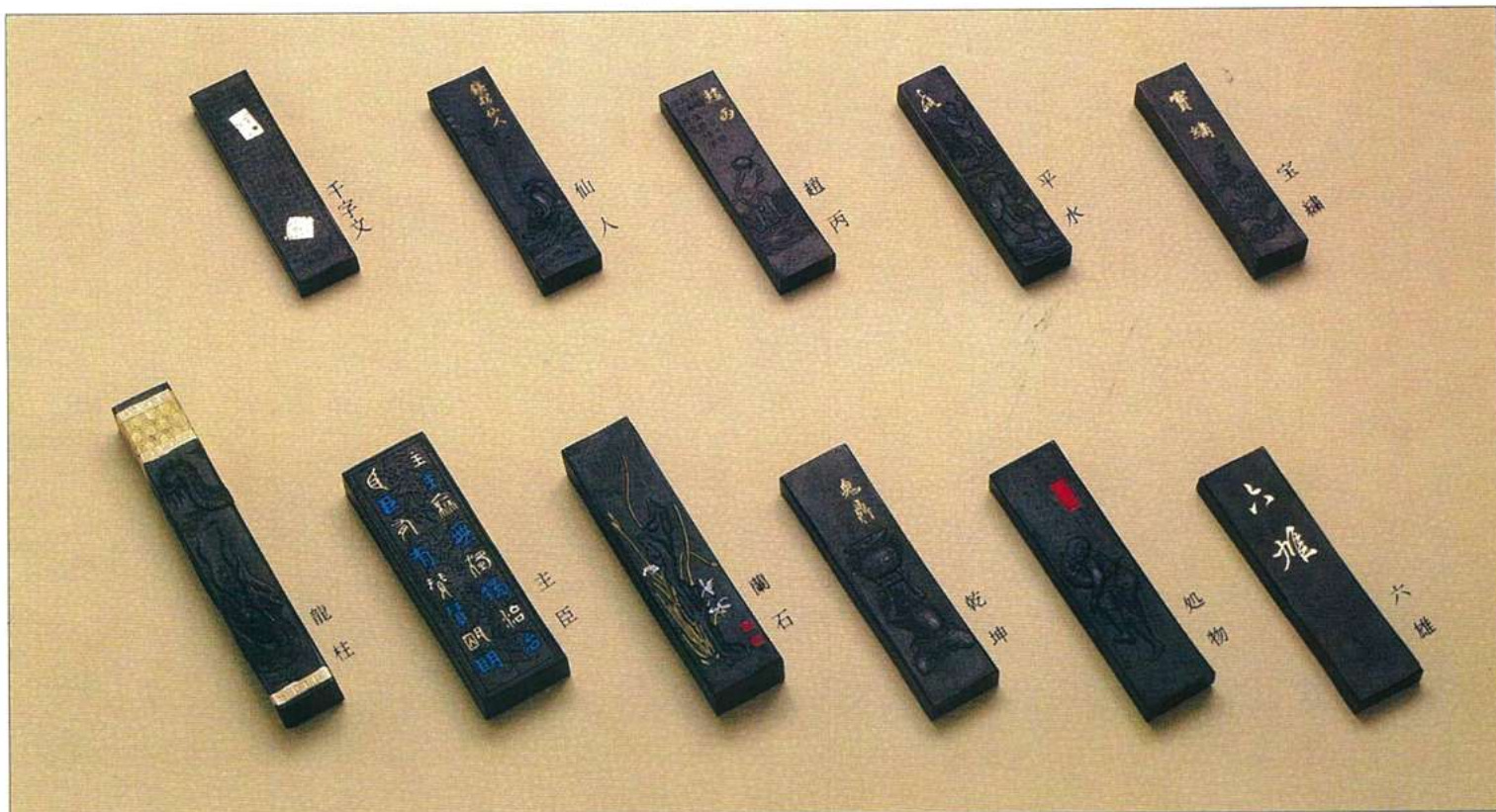
揮毫用墨

多量にお使いになる場合にお得な5丁型・10丁型の大型の墨です。大作の練習用におすすめします。早くおりますので大変実用的です。



上級・専門家用墨

上質の煤煙に油煙を加えた準上級の墨です。純黒の光沢が美しく、香料も上質のものを用いています。



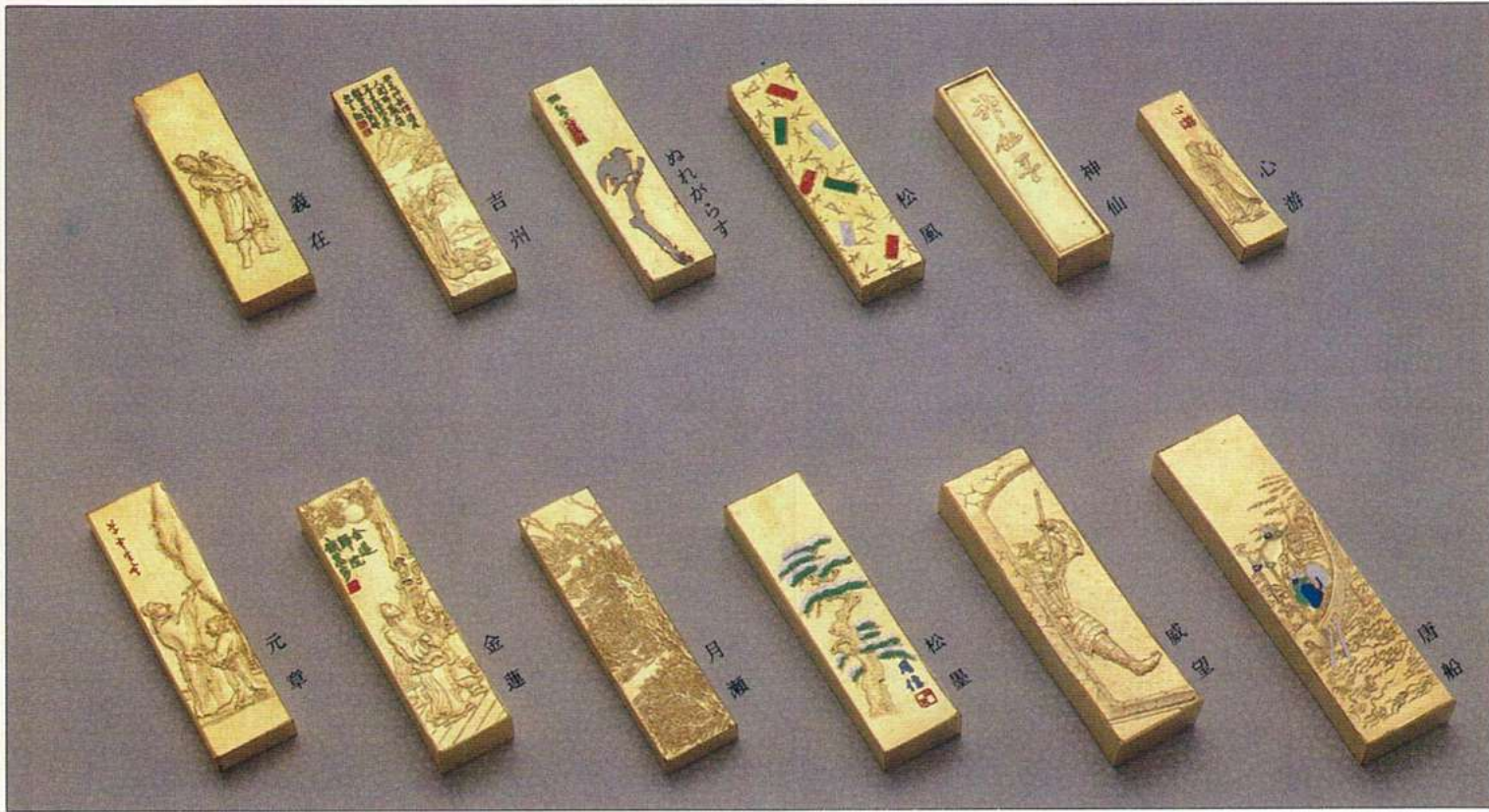
仮名用純油煙墨

上質の油煙とそれを引き立てる上質の膠をブレンドして造られています。小型の墨は仮名用として最良で、淡墨にして用いますと細く美しい線が香りの余韻と共に紙に残ります。また、大型の墨は漢字用として濃墨でも美しい墨色が出ます。



極上油煙墨

この油煙墨は極微粒子の油煙で造られていて、濃淡が自在に表現できます。濃墨では艶のある黒い墨色が引き立ち、淡墨では美しい紫黒色の線が映えます。秘伝の香料を用いておりますので、何ともいえぬよい匂いがします。



変形墨

実用のみにとどまらず、墨そのものの形も鑑賞していただけるように作製いたしました。最高級の油煙を用いておりますので、漢字から仮名まで幅広くご使用いただけます。



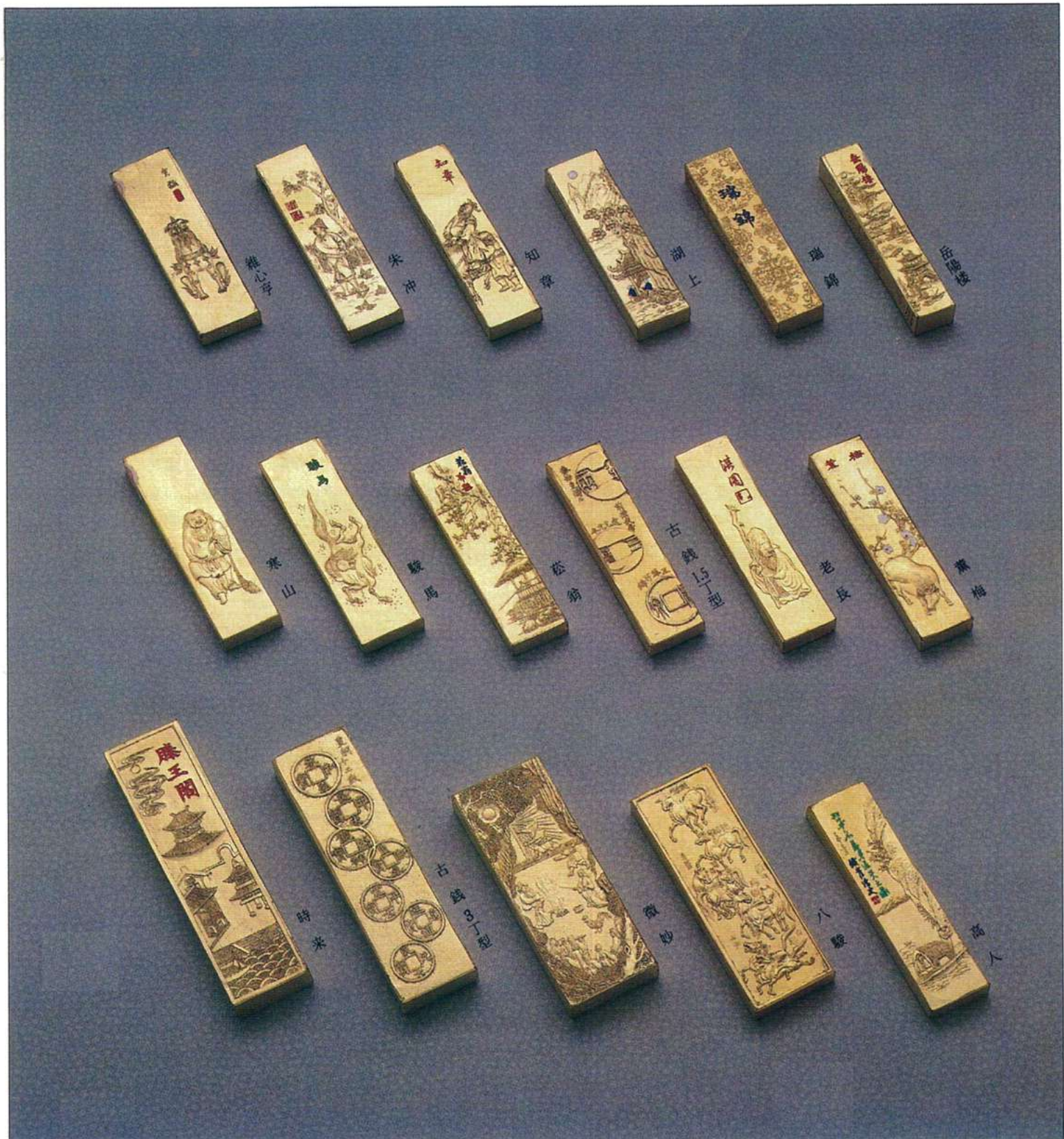
紅花墨

この墨は、昔、本紅を練り込んで造られていましたが、現在は紅花墨に使われる原料が入手しにくく、油煙系の原料を使用しています。墨の頭部にしるされた○印は墨の等級を示し、○印の数が多いほど上質です。賞状や書簡などに適しています。



作品用超極品油煙墨

この製品は最微粒子の油煙を用いて造られたものです。何年も乾燥させてから金箔を巻くことにより、墨が乾湿の影響を受けることを防ぎ、紙にしみ込んだ墨の色に光沢を添えます。この墨で揮毫された作品は色褪せることなく、永くその墨気を伝えます。濃墨の力強い線は光り輝き、淡墨の美しい線は気品をますことでしょう。これらの墨は十分乾燥させた後に金箔を巻いてありますが、お買い上げになりましたら少し磨墨して磨り口をあけておきますと、その磨り口からさらに乾燥して墨が枯れてゆき、一層上質の墨となります。

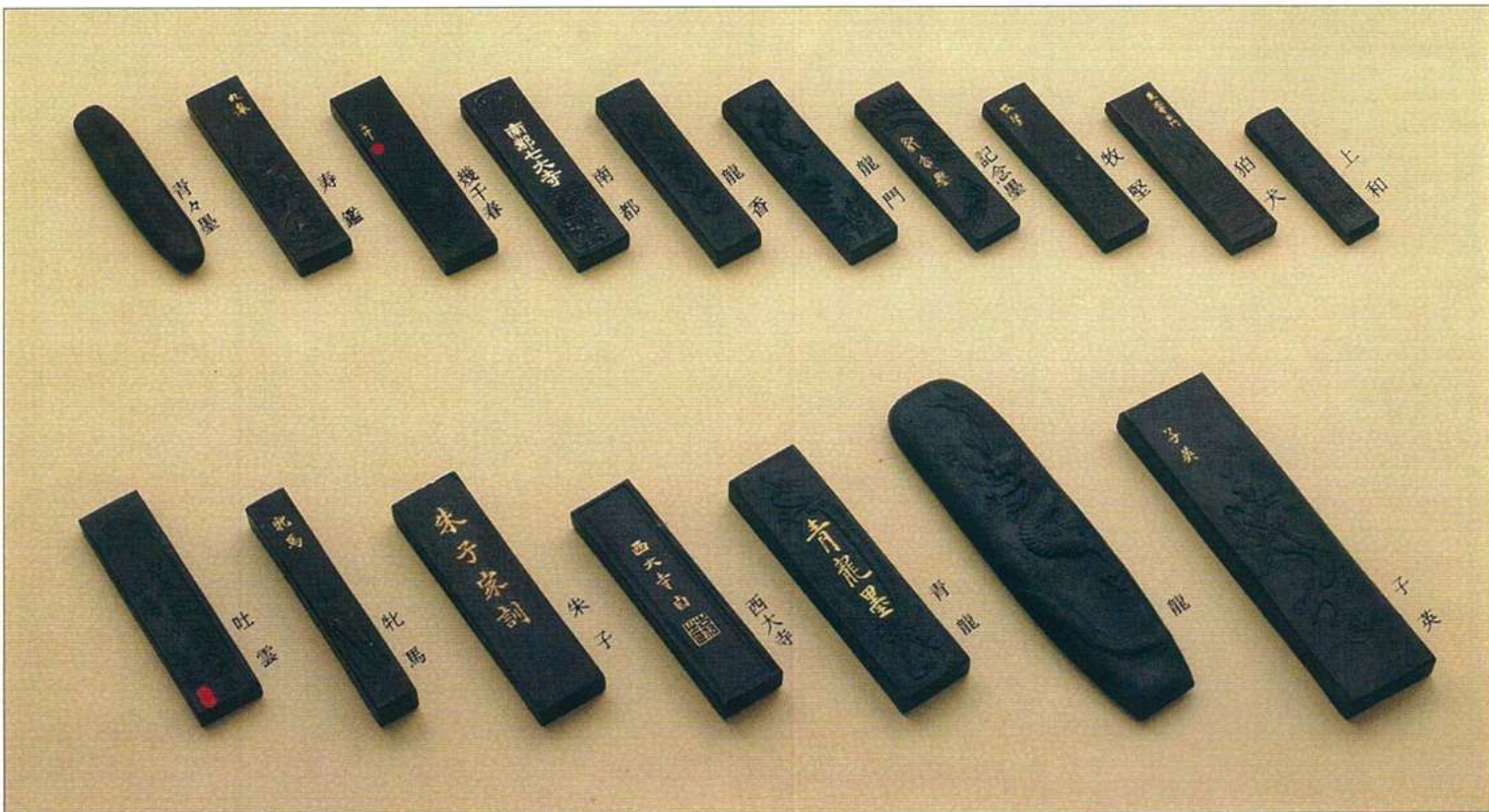


揮毫用純油煙墨・超極品純油煙墨



青 墨

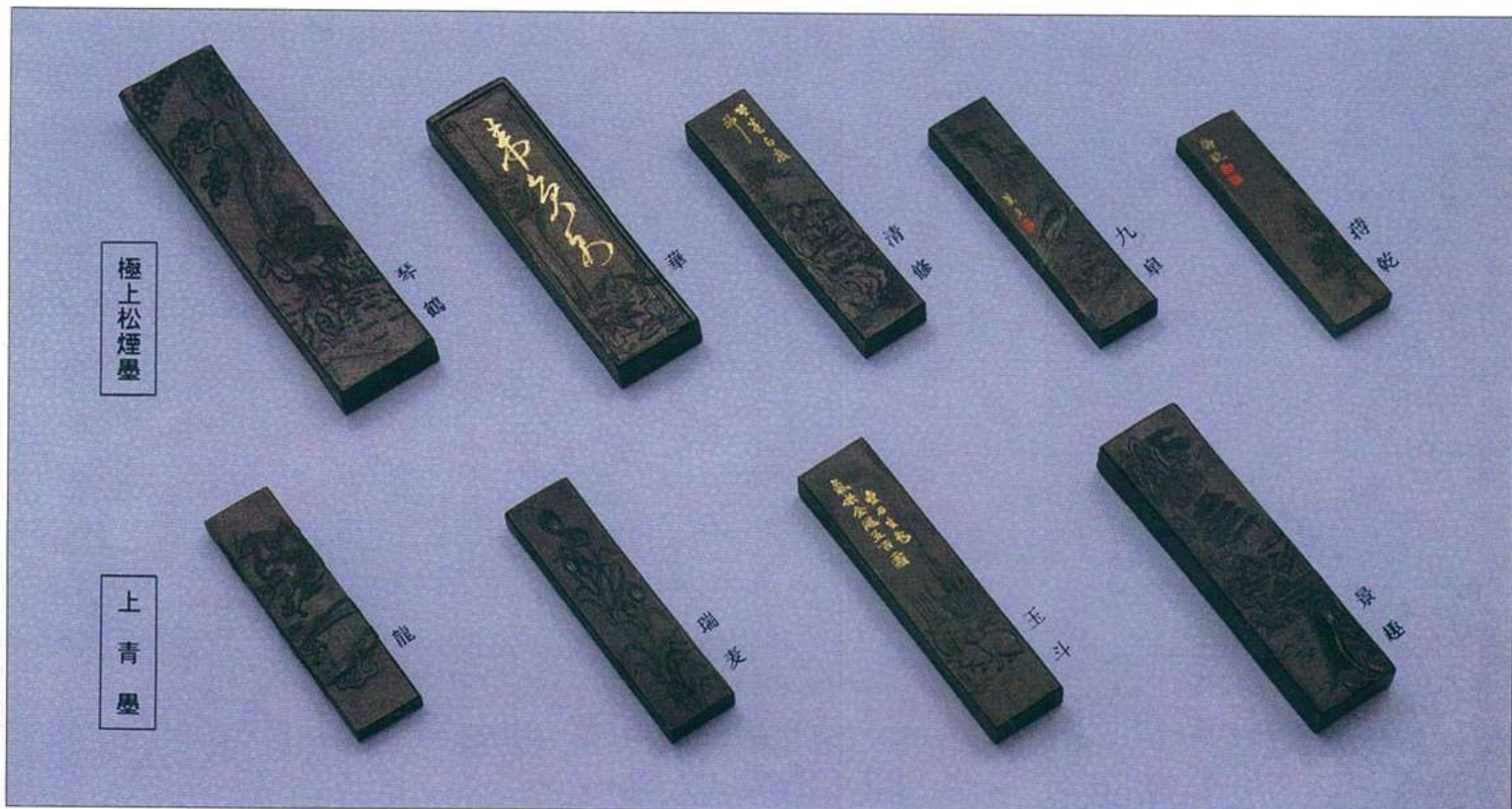
淡墨にするとはのかな青みがでるのが青墨の特徴です。作品の奥行きを深め、表現の幅を拡げることができるので、書にも水墨画にも好んで使用されます。当店の青墨は製法に独自の工夫をしておりますので、特に味わい深い墨色をお楽しみいただけることでしょう。ここにご紹介する青墨は大きさがさまざまで品名も異なりますが、品質は同じです。



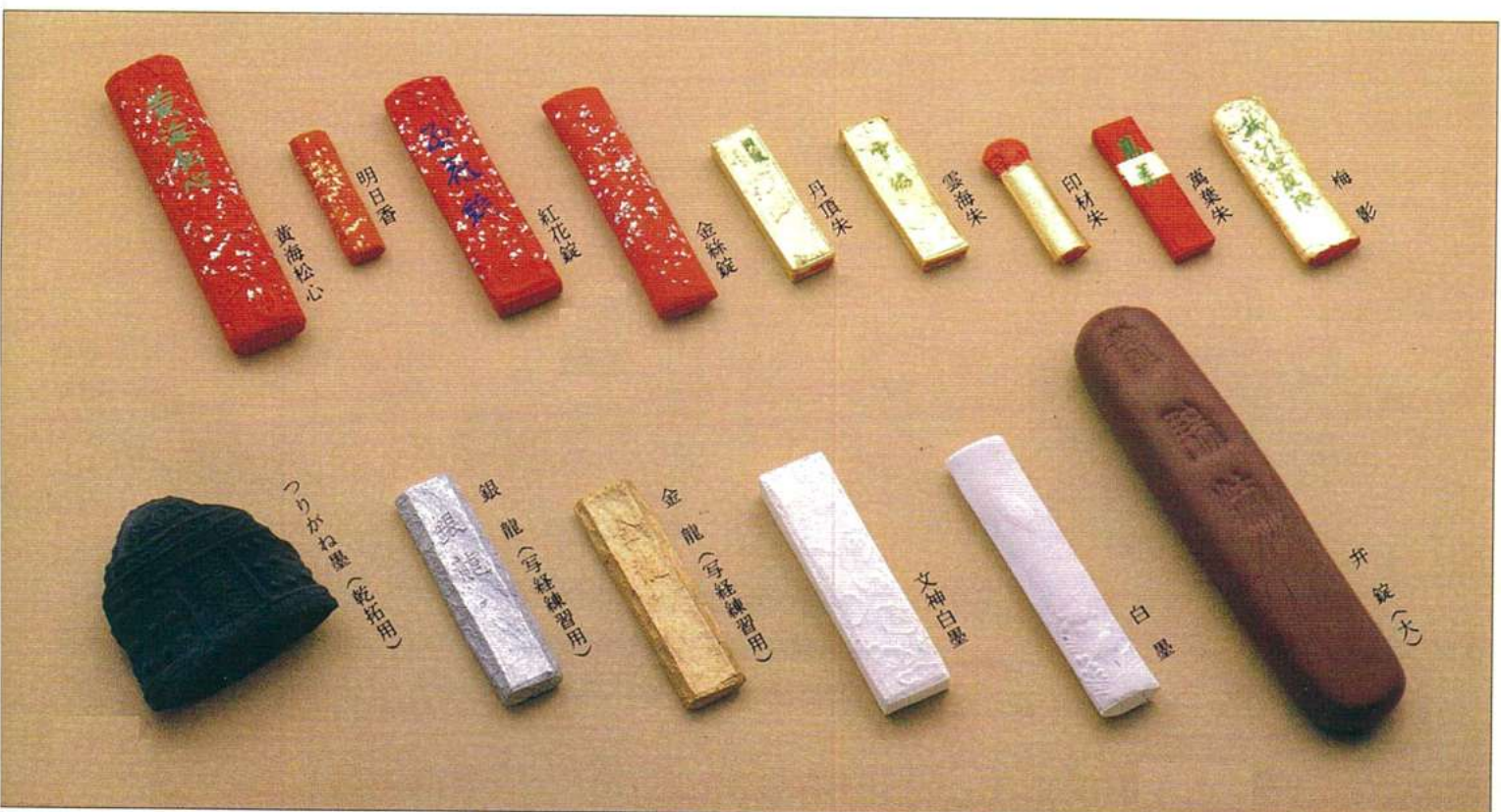
極上松煙墨・上青墨

極上松煙墨（茶墨）—— 松煙墨は枯れると青墨になるといわれますが、松煙の製造方法によって異なり、和墨の松煙墨は一般に茶系統の墨色になります。当店の松煙墨は何十年も前に採取された最極上松煙を用い、一年ごとに数を限定して製造しております。磨墨した時は上質の油煙と同じく艶のある墨色ですが、乾くと美しい茶系の墨色が出ます。

上青墨 —— 青墨により黒味を帯びさせ、落着いた深い墨色が得られるように造りました。線芸術としての書を追求される方に最適の逸品です。



朱墨・写経練習墨・拓本墨・白墨





◆ 墨の原料

墨の主原料は煤煙と膠です。これに品質に応じて龍腦を主体にした秘伝の香料を用います。

煤煙には、油煙と松煙、改良油煙の三種類があります。

油煙は、空気の変動を避けた部屋の中で受け皿に油を入れ、燈芯を差し入れて点火し、その上に土製のかぶせ蓋をして蓋の内側に煤煙を付着させたものを少しずつ採り集めたものです。油煙はこのように採取するのに非常な手間と時間を要し、たいへん貴重なものですから上質の墨以外には用いません。

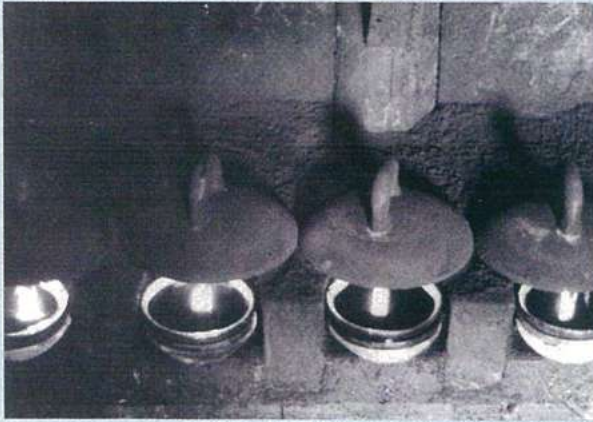
松煙は、松の木の樹皮に付着した松ヤニを燃やして採取された煤煙です。伐採した松の幹や、根を原料として得られる松煙もあります。

改良油煙は、石油系・石炭系の原料をもとにして工場で大量に採ったものです。

以上のように煤煙は大別して三種類に分かれますが、それぞれに特色があり、油煙は紫黒色、松煙は茶褐色となり、改良油煙は黒色ですが、油煙に比べ深みがうすれます。

膠は動物のゼラチン質でできており、これをよく乾燥させてつくります。墨をつくる時はこの膠を湯せんで軟らかくし、時間をかけてゆっくりと溶かして、煤煙とねり合わせます。

◆墨の製造工程



受け皿になたね油を入れ、その中に燈芯を立てて点火し、上蓋に付着した煤煙を集めます。



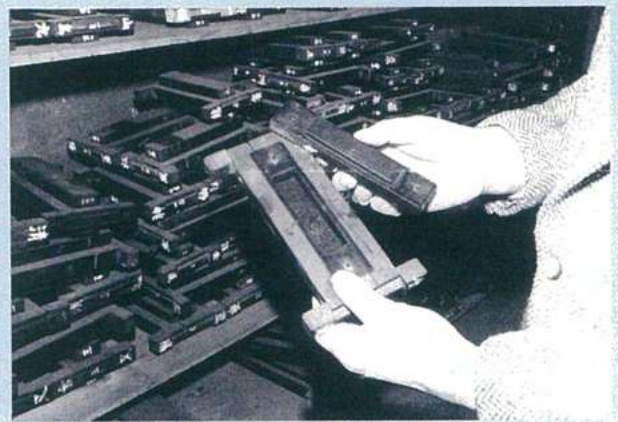
煤煙と膠を機械で練り合わせた後、仕上げに手でしっかりとなじませます。



墨のもう一つの主原料である膠は、水を入れた銅製のタンポの中で長時間煮て溶かします。



墨の固まりを細分し、目方を計って型入れします。



墨の木型は、上蓋・胴・下蓋に分かれています。



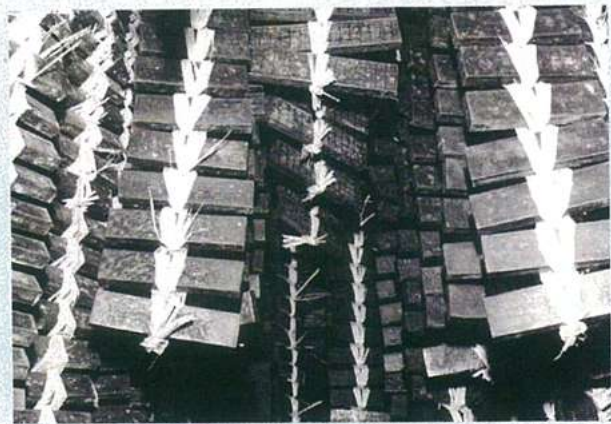
重さを計った墨の固まりは、手の平で光沢を出し、棒状に延ばして型に入れ易くします。



十分なじませた墨を木型から取り出します。



使い終わった木型は、細心の注意をもって手入れされます。



木型から取り出された墨は、灰の中で乾燥させます。湿度の高い灰から徐々に乾燥した灰へと毎日移してゆき、約二〜三週間後、藁で編んで何カ月も吊るしてさらに乾燥させます。





宮内庁御用達

松 壽 堂

本 店 奈良市東城戸町10

TEL. (0742)22-3023

FAX. (0742)22-3026